

第三章 その他

第1節 参考資料

1 おおつ健康フェスティバル

高齢社会を迎えた今日、健康で生きがいをもって、人生を豊かに自分らしく、明るく暮らすことができる地域社会を実現するため、市民一人ひとりが健康を振り返り、あるいは体験を通して健康づくりを見直すきっかけとなることを目的として、平成3年から毎年実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

2 研究及び外部での講演等の報告

【研究報告】

タイトル	大津市子ども発達相談センターで相談を実施した思春期児童の現状について
報告学会名	第 38 回日本小児心身医学会学術集会
発表者名	子ども発達相談センター ○龍田直子
<p><要旨></p> <p>センター開設 5 年の実績を報告。高学年以上で初めてセンターにつながった児童は、それ以前の年代に比べ「不登校・行き渋り」「情緒面」「生活面」など二次的な問題に関する主訴が多く、医学的判断（医師相談）を要する児童の割合が高かったが、本人への支持的面接、家族心理教育、教育等との連携を中心とした多職種チームによる支援で対応が可能であり、医学的治療（投薬など）を要する児童は少なかった。このことから、発達に課題を持つ思春期児童への支援において、多職種で構成され教育機関と併設する現体制の意義は大きいと考えられ、体制の維持と発展が必要である。</p>	

タイトル	コミュニケーション課題をもつ思春期児童の自己理解支援について ～P-F スタディと小児ANエゴグラムの併用事例から～
報告学会名	第 18 回日本小児心身医学会関西地方会
発表者名	子ども発達相談センター ○菅原有里、松原巨子、龍田直子
<p><要旨></p> <p>当センターでは、思春期児童が自分の強みや課題、心の状態を客観的に理解し、「自分らしさ」を受け入れて歩んでいけるように、面接の中で心理検査を実施することがある。</p> <p>不登校等の二次的な問題を抱える児童は、エゴグラムでは低い FC、P-F スタディでは「否定的な自我」「自我の抑圧」「自責的傾向」「理想や規律へのとらわれ」が共通しており、早い段階からこれらが和らぐように育んでいくことが大切と考えられた。</p>	

タイトル	発達障害児の早期発見と学齢期の継続支援について －大津市子ども発達相談センター開設後 5 年間の経過からわかったこと－
報告学会名	日本発達心理学会 第 32 回大会
発表者名	子ども発達相談センター ○松原巨子、龍田直子
<p><要旨></p> <p>子ども発達相談センターの果たすべき役割は、発達障害児への①早期発見②二次障害の予防③特別支援教育など教育現場との連携があげられる。今回、開設 5 年間の経過を振り返り、継続的に支援した 5 事例を通じて、乳児期からの早期発見の課題、不登校や学習困難などの二次障害予防のための対応、子どもの発達障害のアセスメント、学校現場との連携の仕方、継続的な保護者支援の進め方に考察を加えた。</p>	

タイトル	便及び食品からの <i>E. albertii</i> の検出について
報告学会名	滋賀県公衆衛生学会
発表者名 (紙上発表)	信原恵、○西田健吾、上田里實、安田敬子、小椋容子、安田康、須佐美雅幸、中村由紀子
<p><要旨></p> <p>令和2年7月に大津市保健所管内で発生した2件の健康被害事例について、大津市保健所試験検査室で検査を行った食品、患者便、従事者便のいずれからも <i>Escherichia albertii</i> (以下、<i>E. albertii</i>) が検出されたことについて報告した。</p>	

タイトル	社会福祉施設における感染症対策のポイント
発表者名	保健予防課 西川幸恵
講演会・研修会名	大津市障害者自立支援協議会 全体報告会 (web 開催)
対象者及び参加人数	web 視聴できる障害福祉関係機関・当事者・関係者等
年月日	令和2年7月17日 (収録)
主催者	大津市障害者自立支援協議会
<p><要旨></p> <p>新型コロナ感染症対策として、報告動画の作成・web 公開の方法で大津市障害者自立支援協議会全体報告会が実施された。同協議会の依頼を受け、福祉施設職員等の関係者向けに『1 感染症の成立』『2 感染症発生時の積極的疫学調査について』『3 感染防止に向けた対応について』の内容で動画資料を作成し、同協議会のホームページに掲載した。</p>	

【講演等報告】

タイトル	「子どもの育ちを支える大津方式」 ～おとながつながり笑顔の輪～
講演会・研修会名	やまびこ園・教室 保護者学習会
発表者名	子ども発達相談センター 松原巨子
対象者及び参加人数	やまびこ園・教室の保護者・職員 約 60 名
年月日	令和 2 年 6 月 22 日・6 月 25 日・6 月 26 日
主催者	やまびこ園・教室
<p><要旨></p> <p>大津方式の要であるやまびこ園・教室を利用される保護者向けに、やまびこ園・教室が果たす役割、障害のある子どもを育てる上で、保護者にとって大切にしたいこと、子どもが発達するとはどういう事か、大津方式の取り組みの歴史、を伝えた。コロナ禍の下で互いが不安になり分断されがちであるが、親も子も仲間の中で育ちあい、互いにつながり支え合い、力をあわせて前に進むことの大切さについて話した。</p>	

タイトル	新型コロナウイルス感染症の基本と保育現場における予防対策
講演会・研修会名	令和 2 年度感染症予防研修会
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	県内保育所・認定子ども園職員 320 人
年月日	令和 2 年 7 月 28 日、8 月 7 日
主催者	一般社団法人 滋賀県保育協議会
<p><要旨></p> <p>感染に対する基礎知識、新型コロナウイルス感染症に関する情報、保育現場における感染対策等を中心に説明したうえで、感染対策を優先するあまり子どもや保育を見失うことがないように、「こころとからだ」の両面から子どもの育ちを守り支える保育について講義した。</p>	

タイトル	子どものこころの健康と障がい児への対応
講演会・研修会名	放課後児童支援員サポーター養成講座
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	高齢者活躍人材確保育成事業参加者 25 人
年月日	令和 2 年 10 月 16 日
主催者	公益社団法人大津市シルバー人材センター
<p><要旨></p> <p>子どものこころの健康と精神発達過程、発達障害にかかる基礎的知識、子どもの育ちに必要となる要素や、子どもに関わるうえで大切な視点や姿勢について講義した。</p>	

タイトル	コロナ禍が子どものこころに与える影響
講演会・研修会名	令和2年度発達障害児支援研修会
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	大津市医師会会員 16人
年月日	令和3年1月23日
主催者	公益社団法人 大津市医師会
<p><要旨></p> <p>コロナ禍が子どものこころに与える影響について、令和2年度の子ども発達相談センターの実績や全国調査結果をもとに報告した。コロナ禍が子ども達の発達や人格形成にどう作用していくのか、長期的な影響を見据えて対策を講じることが重要であり、医療、保健、福祉、保育教育が連携して、子どもの人間性、精神的健康を育むことは、社会の未来に関わる喫緊の課題である旨を講義した。</p>	